

広報 ごじょうめ

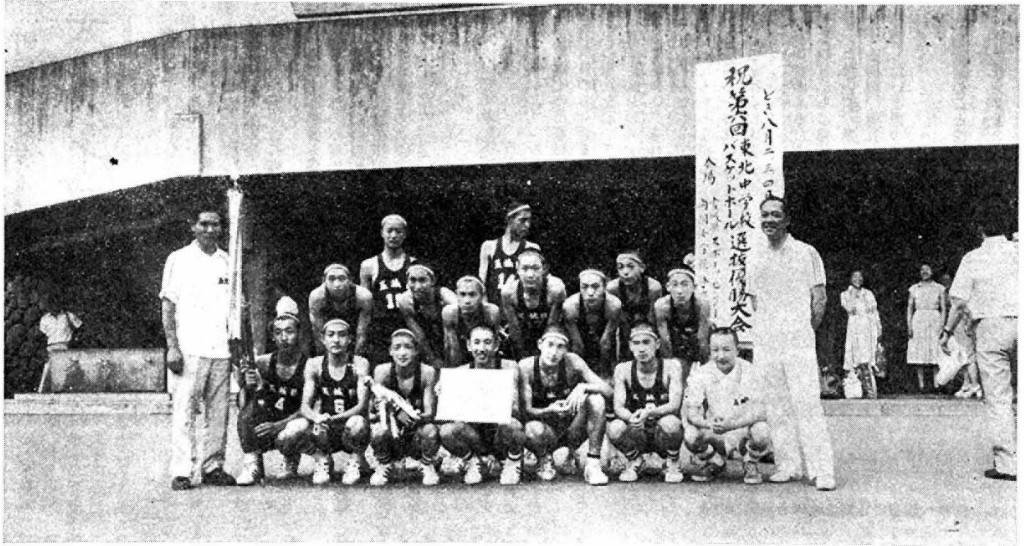
発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876)代 2100番
印刷所 潮 東 印刷所 電話(018876) 2430番 一部 5円
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,961 世帯
人口 17,293 人
内訳 { 男 8,350 人
女 8,943 人

住民登録簿 (51年7月末日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。



優勝旗を手に喜びの選手達 / 写真は上町渡辺隆太郎氏提供

第6回東北中学校バスケットボール選抜優勝大会が8月2日～4日まで仙台市宮城県営スポーツセンターを会場に、東北六県から各2チーム、12チームが参加して開かれた。1日目の1回戦は河南中(岩手1位)と対戦、スピードとシュート力に勝る五一中は終始相手をよせつけず快勝、続く2回戦は対松島中(地元宮城1位)は最初から一進一退の白熱戦で、ついに延長戦の末、1点差でようやく切り切ることができた。最後に決まったシュートは、まさに神業の一瞬だった。

宿敵の外旭川中と対戦4ゴール差で県大会のお返し。2日目の準決勝は八戸三中(青森2位一昨年優勝)と対戦、予想より楽な試合で結局は7点差で破り決勝へ進んだ。決勝戦はいよいよ宿敵外旭川中(秋田1位)秋田県同士となった。しかも県大会で2ゴール4点差で敗れた相手。選手達も今度こそは、の意気に燃えていた。試合は始めから五一中ペースで進められ、ついに4ゴール8点差で2回目の東北優勝を成しとげることができた。戦績次の通り、

- ◆予選リーグ
- 五一中 64 { 36~26 } 45 河南中(岩手1位)
 { 28~19 }
- 五一中 52 { 25~22 } 51 松島中(宮城1位)
 { 22~25 }
 { 5~4 }

- ◆準決勝
- 五一中 48 { 23~15 } 41 八戸三中(一昨年優勝)
 { 25~26 }
- ◆決勝
- 五一中 56 { 30~25 } 48 外旭川中(秋田1位)
 { 26~23 }

知沢(正)監督は「あの瞬間『やった』と思わず立ち上ってしまった。バンザイバンザイの歓声が乱れどぶ喧擾席、県大会で敗れた時の悔しさがふっとんでしまい、こみあげてくるものをおさえきれなかった。夢中になっていただき合い、よるこんでいる選手のイガクリ頭がいじらしく思えてならなかった。

青川頭で勝利を誓う

秋田県大会で4点差で優勝を選んだ選手達は「東北大会では」の合い言葉に全員青川頭ぼうずになって誓いあった。2月の全県選抜で優勝したとき、このチーム、ヒョットすると全国大会へ行けるようになるかも?と考えることが、あったがそれが実現できて本当に感激です。≪勝つことはきびしい≪と今回ほど強く感じたことはなかった。これまで物心両面にわたって力強くご支援くださった父兄、そして町当局、町民各位に対して心から感謝し、来る16日～20日まで静岡で行われる全国大会でもすべてを傾注してがんばって来ることを誓いたい。」と語っておられた。

三年ぶり二度目の東北一

五一中(バスケットボール男子)

今度静岡で全国大会が行なわれるわけだが、東北代表の名に恥ないように力の続く限り頑張っていきたいと思う。



五一中バスケット主将 門間 良雄

△広報サロン▽
東北代表の名に
ふさわしい戦いを

県知事との懇談会(町民センター)で

町づくりの太いパイプ役

去る八月七日午前十一時から、町民センター「いよさか」の間で小畑県知事との懇談会が開かれた。

この懇談会は、四年前から行われていたもので、県政推進の上で県民の声を少しでも多く反映させよう、そして地元でかえっている問題の解決を手伝って、地域の発展と県民生活の向上に努めようとするのが、この懇談会の趣旨である。

懇談会は、昭和四十八年以降五城目町から県側へ要望していた十六件の推移について高畑地方課長外から報告され今年度の要望は雇用促進事業による勤労者のための休養宿泊施設の建設など、町の基本施策に肉づける重要事項を四件要望した。この懇談会の成果が今後どのように生かされてくるか期待したいところである。

懇談会の内容は概ね次のとおりである。

知事のあいさつ

市町村は基幹自治体

県政と言っても県民の生活の場は市町村にあるわけで、生活にもなういろいろな要求が町の施策で満たされるが、町で出来ないこととについて協力するのが県政の役目である。

私は、民主主義の基本は地方自治にある、地方自治の根幹は市町村にも自治体であるが、市町村は基幹自治体、県は補充自治体で市町村の不足なところを補うのが県という自治体である。

懇談会は認識を新にする機会

大きな問題については、常々加賀谷町長から伺って対処しているが、町全般のかかっている問題について、直接住民代表の皆様からうけたまわることは、きわめて重要なことだと考えて、四年前から

知事さんようこそおいでいただき、常日歓迎しているのも、知事さんの日常のご努力の中で実を結んでいるものと受けとめています。

今日は、わが町の方がそれぞれの立場から代表の形で参席しているので、広く意見を聴き届けたい。ださるようお願いして、お礼芳々あいさつしたい。

わが町の町民センターをはじめ広域体育館、あるいはこの森さらに県立五城目高等学校、その他いろいろな建設を進めているが迷一知事さんかご指導いただいたので、本当に心から重ねてお礼を申しあげたい。

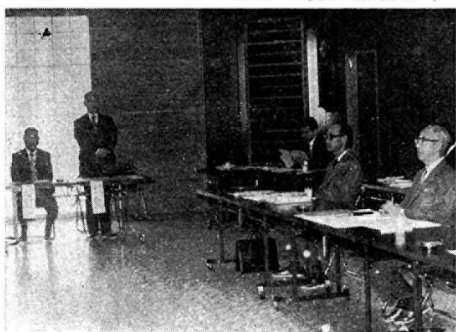
とくに知事さんは、国鉄復線電化の全国協議会会長であるほか、最近の地方財政緊縮化を打開するための、地方財政緊急特別委員会委員長、また老人問題対策懇談会委員や、この町にとってもなかなかえのない、林政審議会委員などをやっておられる。この審議会委員の席上において、五城目町の名前をあげて発言されてるやに伺っているが、県や国のルートに対して

毎年この懇談会を実施しておる。私は古くから、各市町村の事情は、実際に市町村に伺つてみるが、実際の市町村に伺つてみると、議員のみな様をはじめ、各種団体の意見を聴いて非常に認識を新にする場合が多い。それが県政の推進に役立つことはもちろん県と市町村の一体化も町の懇談会は大変役立っている。

本日も出来るだけ多くの方から発言をいただきたい。県に対する要望、意見を拝聴したいと思っております。

町長センター、広域体育館の建設配

町民センター、広域体育館の建設配



知事へ歓迎の言葉を述べる加賀谷町長

私どもの仕事が非常に円滑に進んでいるのも、知事さんの日常のご努力の中で実を結んでいるものと受けとめています。

町道広ヶ野・下山内線

この線の改良工事に関する国庫補助採択の要望が、昭和四十八年度にあったが、これについては、現在五城目町における国庫補助事業として町道改良がおこなわれている。なおこの線は橋梁整備でも一つの橋を施工しているのもで更に補助事業の導入をするには困難な状況である。

今年度から新しく市町村に付けられた、地方道路雪害地域道路事業、臨時市町村道路整備事業などがある。これをよく検討して町の方でも国へ要望してほしい。

第二期 山村振興道路改良事業

昨年度当初三六〇〇の計画であったが、今年度から第二区として八四〇〇延長して、全長千二百〇〇実地することになっている。

昨年度は第一区用地買収を完了しているが、早期完成のために今後とも国に要望していきたい。



永久橋化される坊村橋

アップされており更に人員費についても事業費の中から執行出来るように事務取扱要領が改正されている。なお超過負担が完全解消について今後とも引き続き国に対して働きかけしていきたい。

農村総合整備モデル事業の促進

この事業に係る国の予算をみると年々二倍前後の伸びを示している。総需要抑制の影響などで、事業発足直前に予定されていた四カ年で完了するという見通しは非常に困難な状況である。

農林省では、来年度以降もこの事業予算の大巾な確保すべく努力しているところである。県としても事業ができるだけ早く完成するよう更に国へ働きかけしていきたい。

農道整備事業費の中増額の要望について

大川農道今年度で完成。大川農道の昨年度の事業費が、千七百七十八万六千円の追加配分により、当初内示額の約五倍にあたる千四百七十八万六千円になっている。

なお今年度は六百二十万円の配分があったので、これにより大川農道の工事は完了することになる。

野田農道について

野田農道に対する事業費の追加

配分もあつたが、合計すると内示額の三倍になり、千五百十一万円に達して、今年度は、一千万円の割当で、完成までにあと二千三百万円程度が見込まれるので、この確保に努めたい。

●小倉農道について

この農道に対する追加配分はなかつた。今年度は五百万円の割当となつてゐるが、残事業費二千五百万円の確保について一層の努力をしていきたい。

●谷地田農道について

谷地田農道については、昨年度五十六万二千円の追加配分があり合計で千六十一万二千円の内、今年度は千二百三十万円予算が付いたので、工事はこれで完了する予定である。

●広域基幹林道の早期完成の要望について

これについては毎年国の方へ予算の拡大を要望しているが、その結果、今年度未までの施工延長は五千二百二十mになる予定である。しかし国県とも財政的に苦しい状況なので、一気に予算枠を拡大して今年度で残事業すべてを完了することは困難だろうと思われ、県としても、ご要望の趣旨に添えるよう努力し、早期完成をめざしたい。

●湯ノ又林道の早期完成について

これは昨年度から着工したもので、全体計画三・五kmの内、今年度中に一・〇二五kmが開通される予定である。完成後は広域基幹林道の五秋線に連絡する重要林道なので、今後とも予算額の拡大に努め早期完成をめざしたい。

●奥道五城目・北ノ又秋田線・水沢・赤地間の道路改良整備について

ご要望のあつたこの各線の区間については、昨年度よりあえず限度舗装しているが、道路改良事業として施工すべく、今年度はルート調査、米年度は測量すべく検討中である。

●黒道能代〜五城目線について

これは浅見内、郡境間の積累改良事業の早期完成についての要望であるが、この区間については昨年度から継続して工事を行っているが、米年度には完了する予定である。

●町道高崎・広ヶ野線・坊村橋の永久橋化の要望について

坊村橋は今年度橋梁整備事業として採択になり、現在用地交渉を行つてゐる。

●文化ホール建設事業に対する県の補助制度新設の要望

五城目町の建設計画では、五十二年四月着工、五十五年四月竣工の計画案をもっているようであるが、国庫補助の交付は最終年度に行われることになっている。県の補助制度については、その時点で国の補助額、あるいは東北各県の補助実績等を勘案しながら具体的に考慮していきたい。

●奥道真坂・五城目線浦横町バイパスの舗装の要望について

これは現在実施中なので、年度

内には完成する見込みである。昭和五十一年度要望事項

一、雇用促進事業による勤労者のための休業宿泊施設の建設について

秋田県が五城目町に設置した野鳥の森に接続している五城目町、この森に、五城目町並びに周辺の勤労者およびその家族が休業と健康増進をはかるための、野外趣味、余暇利用施設として、雇用促進



今年度で完成する大川農道

実現には非常に困難がともなうとみられる。雇用促進事業団は施設本体に係る費用一億円程度を出すだけで地元負担という形になる。したがって、用地問題、財政計画を組む具体的な建設構想を十分に固める必要がある、それが煮つまった時点で、国に対して積極的に要望していきたい。

二、馬場目川河川改修の継続施行について

馬場目川河川改修において、五城目町野野橋左岸下流の区間約100mを除く上下流は堤防が完工しているが、この残されている約100m区間についても早期に改修を施行していただきたい。

果側寄弁

この区間については、ちよつと高台になつておるのて堤防としての効果はあまり期待できないが、その後の掘削が残り残つてゐるので、そういったものを含めて是非施工しなければならぬ箇所であると思つてゐる。しかし五十二年度に予定している事業内容としては、前々から加賀町長に要望されてゐた、役場前の護岸の一部未着工のところを、揚水部門の一カ所が予算の関係で五十二年度に残つてゐるところが、また川崎地区の堤防も一部実施したので、この地区の着工は五十二年度頃と

えている。堤防の改修は 役場建設時期を見て

町長：今の堤防の件だが、現在役場は腐朽に近い状態、何れ建てなければならぬ。堤防を改修するということは、即役場に係るため、役場の建設時期と照準を合わせる配慮をしてほしい。建設する前の年あたり施工してもらいたいので、下流の方を先にやってみてほしい。

三、奥道・五城目・北ノ又・秋田線の落合・蛇喰間の改良整備について

奥道、五城目北ノ又秋田線の、落合蛇喰間の橋梁については、昭和四十九年度永久橋化されているが、道路についてはいまだ着工しておらないので、奥地十二戸の住民の生活、通学道路としての主要道であることから、この区間の延長千四百mの改良整備について早期着工をお願いしたい。

果側寄弁

この路線は、今度五城目八郎湯線も含めて主要地方道にわけ、この線の改良路線になつたわけ、秋田八郎湯線について簡単に申しあげると、まず赤地杉沢間の積累改良については今年で完了する杉沢落合間については、米年、再来年二年位でやはり積累改良として実施したい考えである。更にその奥の落合、蛇喰間については、その段階でルートなども含めて検討したい考えである。

果側寄弁

二次林橋の内容と全く同じなので、県のかさ上げについては、知事：近いうちに、町の担当課と県の方と一緒に踏査し、ルート

れと言うことではなく、毎日朝夕通学している児童生徒がおるので、何年か前からお願ひしているわけで、今までのご答ええから、やつてくれるという受けとめ方をしておつたが、なかなか着手していただけないようだ。

県道であるけれども、道なき県道を児童生徒が歩いていることを念頭においていただき、最少限度人が歩ける程度の道型をつけてほしい。

知事：どのようにすゝめたらよいのでしょうか。

町長：橋はすでに永久橋化になっているので、用地の提供は協力いただけるものと聞いている。ブルドーザーで道型を作つてもいい。最少限度の排水溝を設けて上にパラシを敷く程度で、子ども達は歩くことが出来ると思ふ。

知事：近いうちに、町の担当課と県の方と一緒に踏査し、ルート

四、二次林橋の特許事業に対する県補助金の予算措置について

林橋事業については、従来二〇%の県補助金の交付があつたが五十二年度の二次林橋特別対策促進事業についても同率の補助金を予算措置されたい。

果側寄弁

二次林橋の内容と全く同じなので、県のかさ上げについては、知事：近いうちに、町の担当課と県の方と一緒に踏査し、ルート

上山内移動町民室

モデル事業で生活環境を整備

去る八月九日午後六時三〇分、上山内部落移動町民室が同公民館で開かれた。この町民室は今回で四回目を迎えたが、町民の町に対する要望や意見を少しも町政のために反映させ、明るい町づくりの助とするものである。今回は、六六の要望について町当局から回答が出され、農村総合整備モデル事業との関連で生活環境を整備し、道路などについては暫次舗装補修を行う方針を明らかにした。

午後六時三〇分定刻どおりに始まった。最初に伊藤(身)部落長から「一日の仕事で疲れ切っており方針を切っている」とあり、しかも夕食前という中で部落のほとんどが家からきていただいたことに感謝する。この点から見て、かに皆さんが日頃町政に対して関心をもっているかの現われである」と、あいさつがあった。

計画が具体化

引きつづき町長から町の現状と将来について説明があった。町長町の発展を考える場合長期計画の策定が必要である。これは計画的にやらなければムダができる。政効率を期待できないためである。第二には、学校をつくるのが道路をつくるのが一番問題になるのは土地の取得である。これを先行取得するため解決するために開発公社を設立した。計画から六年日によりやく先行取得した所にいろいろのものを建てた。道路等をつくり、形となつて皆様の前に現われる状態となつた。

補助事業を

橋、道路、下水の整備に因しては農村総合整備モデル事業がある。現在皆様のいたまいでいる税金は職員の人件費をまかなうだけではない。事業をやるというわけにはい

産業の振興を
つぎに秋田湾大規模工業開発との関連で自動車専用道路に着手するのではない。か、その場合、町のどこに既存道路と連絡するインフラエンジニアができるか、これをやればなる。理想定しておかなければならぬ。いだらう。そして、それを柱に産業振興にウエイトが移るだらうと考へる。こうした点を念頭におきな

この良い例である。
第二は全てで金で評価するという習慣である。
第三はテレビのCMによって日本語という言葉が混乱している。本語という言葉を本質、本物、真実というものを把握しなければならぬ。
学校給食の米飯化にしても児童に食べさせるのはあくまでも、糧として人間が生きて行くための一つの手段として考へ、皆で合意を得ながら相互の価値判断をする。したがって、大規模工業開発が良いのか、インフラエンジニアが良いのか、ここで反省しなければならぬ。目標として掲げ、その過程として、まず秋田周辺の交通渋滞をなくし、いまの東北縦貫道に結ぶ二八五号線の整備というものが進んでいく。これを一つの目安にしてながら産業振興へ移っていくのが本町の行方ではないだらうか



上山内移動町民室風景

町：五十二年度に予算措置をし製材所の車庫のところまで五〇米舗装する。
町：末広線について
町：旧校内まで五十二年度予算でぜひ措置したい。
町：中島線について
町：生活道路とも関連するので来年度に着手したい。
町：上広野線は下水、側溝など不潔な状態であり、ぜひ舗装して欲しい。
町：モデル事業とも関連があり、地方のご協力をおねがしたい。工事時期については、国の財政事情とも関連があり、具体的には明らかでないが早く着工するようにしたい。
町：農村総合整備モデル事業に係る下水路工事の早期着工について。
町：農道整備事業の小倉線工事に洋ウ沿線の農業用水路にU字溝を設置して欲しい。
町：この事業は国の補助事業である。現時からすれば事業費がかかる。現状からすれば事業費を確保することが大切なので検討させていただきたい。
町：上広野線の架替について
町：川原に危険を感じる。
町：山田、山林などあり早急に架替えて欲しい。又

町：永久橋にすれば一千万円かかる。補助事業にのせ農道橋で取上げれば補助対象となるので検討したい。重量制限は再度現場を見て、車両を通行止にして事故防止を図りたい。
町：二八五号線は朝夕に混雑し、又地盤が軟弱なため大型車が通ると家のゆれがひどい。パイパスを早急に作って欲しい。
町：交通渋滞は大へんだ。工事の順序として井川の方から入って警察署前の方が先だが、皆さんのご要望に添うように善処したい。
町：消防舎の建替について末広内に建てたいが会社側が承諾しないので町から働きかけてほしい。
町：現在町有地であるが、道義的に会社の立場を考慮しながら前向きに意向を打診したい。
町：終りに町長から今日の町民室を総括する意味で「あいさつをおねがしたい。」
町長：いろいろのご要望を聞き、私もよくは知らない点をはじめて。よく部長と相談して一刻も早く実現したい。
町：私が良いと思つてやること、パイパスの件でも、何故つくるのかよく考へて真の豊かさの意味を再吟味したい。
町：時間を厳守して集まった皆さんに對して心からお礼を申しあげた。

役場庁舎を建設
これからの大きい仕事は、役場庁舎の建設である。公共施設が整備されてくると自然発生的に役場の位置というものが、町民の中から納得していくような地点がいずれ出てくるだらうと思う。
センター体育館、五高、大川小役場など公共施設はだんだん目鼻がついてきた。このあと何かというところ、やはり、秋田市を中心とする交通網の整備である。
昭和五十四年から五十六年の間に東北縦貫道ができる。それに呼応して鹿角、秋田間の道路が整備される。

専門バカを廃止
今までは既定概念、つまり経済第一主義に考えた目標であったが注意しなければならぬのは、知識が専門化し、分業化したこと。たて別行政で、その部分だけとりあげれば効率的であるが、全体的に見ると必ずしもそうでなくヒズミが現れてくる。公害、不合理は

要項事項に入りた。
質：末広工場の防火貯水槽は、側溝コンクリートでないで改修して欲しい。
町：なるべく早期に完成する方向で検討するところどういうふうになるか後日お答えしたい。
質：部落内の引込線について舗装補修していただきたい。
町：和田線の門前に入った地点、

重量制限は何トンか。
町：補助事業にのせ農道橋で取上げれば補助対象となるので検討したい。重量制限は再度現場を見て、車両を通行止にして事故防止を図りたい。
町：二八五号線は朝夕に混雑し、又地盤が軟弱なため大型車が通ると家のゆれがひどい。パイパスを早急に作って欲しい。
町：交通渋滞は大へんだ。工事の順序として井川の方から入って警察署前の方が先だが、皆さんのご要望に添うように善処したい。
町：消防舎の建替について末広内に建てたいが会社側が承諾しないので町から働きかけてほしい。
町：現在町有地であるが、道義的に会社の立場を考慮しながら前向きに意向を打診したい。
町：終りに町長から今日の町民室を総括する意味で「あいさつをおねがしたい。」
町長：いろいろのご要望を聞き、私もよくは知らない点をはじめて。よく部長と相談して一刻も早く実現したい。
町：私が良いと思つてやること、パイパスの件でも、何故つくるのかよく考へて真の豊かさの意味を再吟味したい。
町：時間を厳守して集まった皆さんに對して心からお礼を申しあげた。

二ノ沢県行造林地に永久林設定

秋田県の林政史上初めて

先人の偉業を引継ぎ緑の普及と
去る八月七日午後二時から、二ノ沢県行造林地内において、小畑県知事加賀町長など多数の関係者出席のもとに、永久林設定記念碑（写真）の除幕式が行われた。



この設定面積は一・五四haで、秋田県で初めての永久林である。当日高千部部長（小玉太美雄氏）のあいさつの中で、「このたび加賀谷町長を通じて、緑化思想の普及と先人の偉業を引継ぎ種子一孫々に伝えるため、県行造林の一孫を永久林として設定していただくために、小畑知事にお願いしてもらったところ、早速心快諾の上碑文まで書いてもらい心から感謝している。しかもこのたびの設定は、秋田県の林政史上初めての事と聞きおよんで部落民ひとしく誇りに思っている。これからは緑の造成を励行し山林の育成に努めていきたい。」と述べておられた。

昭和六年に設定

秋田県の県行造林は、昭和二年から始まっており、今年はずらら五十一年目に当り面積も六千haにおよんでいる。二ノ沢県行造林の場合は、昭和六年三月二十三日設定されたもので、総面積六五・八haが対象となり、昭和九年に植林が完了している。

採草地を美林に

それまでの二ノ沢は慣行使用権のもった採草地であった。しかし当時富津内村村長で高千部部長でもあった小玉孫三氏が、地域環境の特殊性を生かし、森林素材の供給源地として山の機能を十分活用することが、高千部部長はもちろん、富津内村民のためにも得策であり、この山間地域の人々はその担い手となるべきであるとの強い

思想から、県林造林の誘致に踏み切ったのである。

強力な町財源に

二ノ沢県行造林の財源は四十五年を数え、今、町財政の窮乏を支える強力な財源となっていることは予て承知の通りである。その先見の目的は、ビタリであり、その先見の明は正に先人の偉業である。

ほくたちの花だんは花さかり

岩野子ども会！

岩野子ども育成会では、今年から花だんの管理はすべて子ども会（二十二名）の自主性にゆだねることになった。

公民館の前に設けられた花だんには、春に五城目町公民館から分けてもらった、マリゴールド、きんぎょ草、メチユフ、まんじゅう草など、いろいろとりどりに今を盛りと咲き誇り、道行く人々の目を楽ませていた。

雑草の手入れをする子どもたちも、自分たちの育てあげた花に愛着があるのだろう、花が折れてしまったと大騒ぎをしていた。この



ラジオ体操後花だんの草取り

子ども会の年中行事は多岐で、春の親子なべっこ遠足をはじめに、親子野球大会を五小グラウンド、海水浴、などで親子の対話を深める企画が満々であった。

自然をいたわる 心を大切に

ことしも海や山に親しむ季節がやってきました。東北に住む私達にとって、この季節は自然に親しみ、自然とふれあう絶好の機会となります。しかし、この素晴らしい季節になり、必ずといっていいほど悲しいニュースが

テレビや新聞などで報道されます。交通事故や、海や川などでの水死事故などが、急に私達の気持ちに暗くします。また、このようなことは別に私達の気持ちを暗くするものに、次のようなものがあります。たとえば、この季節に入りますと、ドライブやサイクリングに出かける機会が多くなりますが、その途中海や川などに、ゴミや汚物が捨てられていたり、道ばたにビールやジュースの空き缶が捨てら

れているりして、それまでの楽しい気持ちが一転して暗いものになることは、多くの人々が経験されたことでしょう。皆さんご存知のように町では毎週、国や県でも、その利用計画をそれぞれの分野で策定しつつあり、またこのことは別に自然や河川、道路などいっわゆる公物を愛護する運動も機会ある毎に推進されています。しかし、このような計画や運動も私達ひとりひとりの心の中に、

五城目町の石仏 ④

小川元生

三十三観音の一体である。基壇に十番と刻んであるが、魚躍観音ということとなるが、しかし像形は全く違う。ここには三十三のうち二十三番が並んでいて見事である。足らない分は寄進者の中の近くの寺院に分けられていると聞いた。だがそちらの方は、まだ眼にふれる機会にめぐまれていない。この石仏の前に立ったとき、美しいという感動と共にしげらけ



馬場目地区 大きさ 64×30

ずんだ。どれも童女風に可憐な顔容に造られているが、じつと見つけると、成熟した女のなまめかしさにも、にじみ出てくる不思議さがある。深く丁寧な彫りと、適宜な省略法、三等身に造られていないが、これら表情から石工の背後にいかなるイメージがあつて造られたのか推理を広げてみたくなる。これを彫った石工は誰だろうかと同時に、石工の心も知りたと思う石仏である。

老人クラブ員

自力で「いこいの家」を建てる

―愛称募集中―

「年よりが明日の夢を育てる会」これは五城目地区老人クラブに付けられた名称である。いかにも現代的でさわやかである。

この会では春以来いろいろな行事をやっているが、ただいま「町民いこいの家」(仮称)を建設中である。この建設の契機となったのは、去る二月亡くなった畑町の加賀谷タエ(70)さんの空家を譲り受けた時には、自分たちの手で、自分たちの集会所を建てようとした。早速場所の選定に川添いに町有地があったのでこれを借り受けた。

昔とったなきねづか

解体から柱建までは、時間の許す会員が手伝った。大工のとうりようは、昔とったなきねづかが一番町の佐藤さんと、田町の新谷さんである。古材のクギ抜きなどはおばあさんが手伝ってくれた。また、タルキやヌキなど製材所からの特志寄附や、たみ建具などは会員の持出しであった。また屋根張りは、中村板金さんが母親の褒りに努力提供してくれるなど、クラブ会員と家族ともどもの善意に支えられて完成した家である。

町部で町内独自の集会所を持っているところは極く限られている。それだけに各階層から応援はすまじく、会員の熱意にまさるともおとらないものがあつた。

町民のみなさん
利用してネ

この家は完成後五城目町社会福祉協議会にその管理を移管するが会員たちは広く町民に利用していただき自分たちの熱意と技術が社会に役立てばこの上ない喜びであると思つて



ひまをみては建設の手伝いに来る老人クラブ会員

愛称募集します

一、この家に対して、広く町民から愛称を募集する。

二、募集期限

昭和五十年八月三十一日

三、提出先

五城目町社会福祉協議会事務局
五城目町高崎字笹下川原64ノ4

四、選出の方法

同名の愛称が多い場合は、抽選の上決定する。

五、その他

入賞者には薄謝を贈呈する。内容にご不明な点があった場合は社会福祉協議会事務局へ連絡してください。

(窓口五城目二七六八番)

住宅金融公庫からのお知らせ

個人住宅建設資金(7.5%口)

(住宅面積が120㎡をこえ150㎡までのもの)

受付期間 51年8月10日-51年9月9日

(個人住宅建設資金(5.5%口)と増改築修繕等資金の融資受付は、移以降に行います)

くわしくは公庫仙台支所 電話 0222-27-9311
または、取扱金融機関の窓口へおたずねください。

また、自然環境として緑が多くボブラの並木、白樺の並木でかまされて、道路が広くいたるところに花だんがあって、美しい花が咲き乱れ、聴い場のとしての公園、その中に革命戦士としての記念碑や芸術作品がいたるところにあり、戦士の霊に捧げる「炎」をたやすことなく炎え続けさせている。

公園の中に婦人の姿が目につき掃除をしているし、又花だんの手入れをして美しい花をさかせ、とてもうらやましくさえ感じた。

市民の方々は「平和」という言葉には敏感であり、いくつかの戦争を通じて祖国を愛する気持ちを誰れもがもっており、私の心の底には

訪ソ青年の船に参加して



五城目町社会教育主事
伊藤敏雄

(2)

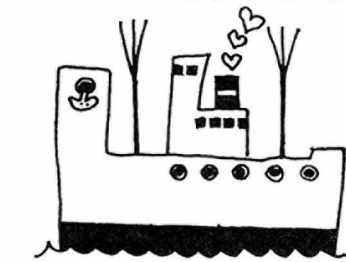
の整備を実施しているが、農業技術と品質低下は、質より量の生産性向上を必要とされていた(おもとマト、キウリの栽培である)訪問する都市には教育施設が数多く、教育にかける力は大きい。特に少年組織、幼児教育には、保育所、幼稚園ビオニールキャンプで徹底した社会主義思想として、困つくりのため、人づくりの教育にかけるソ連の姿を目の当りに見ることができた。

首都モスクワ、京都を思わせるような歴史の都といわれているレニングラード、そして太陽の町アルメニア(エレバン)を訪問して言葉は通じなくとも、青年交流を通じて、思想が異なっても話し合



レニングラード聖イサク寺院

いを見て見ると、人なつこく、素材で重厚な感じさえるのである。パーティーなどで踊り、手をたたくあいそこぬけに明るいのである。またパッチなどの記念品の交換を好む国民である。この二週間で国情の違いが、ソ連の生活文化や青年の生き方の中からの愛情、自然を愛する心、人間愛にふれ、われわれをの心うつ大きなものがあつた。



この研修を通じて得た体験を地域社会に協力しながらでも生かしていきたい。このような機会を与えてくれた関係各位に対して感謝の意を表し、報告としたい。

米を食べましょう

米の消費拡大連絡協議会が発足

去る八月十日午前十三時十分から町民センターで、米消費拡大推進連絡協議会が開かれた。これは最近の食糧事情が食生活の多様化にとまなつて、十分な国内供給力がありながら米の消費量は年々減少傾向を見

せており、もつと食糧としての米を見直そうと生まれたものである。活動方針については、①米に対する正しい知識の普及 ②秋田米の消費拡大 ③学校給食への米飯導入 ④良質米の生産奨励 ⑤消費者へのサービス高揚などを中心に農業委員会、農業改良普及所、婦人連絡協議会など主要三十団体が結束して強力な運動を展開する。

米は生活の糧

米は日本人の生きる糧である。ヨーロッパやアメリカ人が小麦を生活の糧にするのと同じである。戦後の食糧難時代にある家が貧乏人は麦を食え、といったときがあつたが、米食にかたよることその栄養価値やバランスに関し、米をきざり傾向が出た。

高度成長時代は、米作り人口を大城に都市近郊労働者に吸収していった。このため、他産業とのアンバランスの上に米食以外の即席食品が生活の中に浸透してきたわけである。インストラクターメンはその代

表的なものである。

米を食べよう

昭和四十年代の後半は、地球の食糧危機が呼ばれてきた時代である。地球をとりまく自然環境は、自壊作用ともいえる産業公害をもたらし、これが人間の居住環境まで影響を及ぼす。ソ連のウクライナ地方における小麦の大不作。インド、アフリカの干ばつなど顕著なものである。こうした地球全体を取りまく自然環境の変化をどう受けとめて行

くべきなのか、私どもに身近かに問いかける。こうしたことから、最近あらためて食糧確保の重要性を見直そうとしている。とりわけ秋田県は米作りを中心とする日本の食糧基地となるべく、日本人の米に対する認識を改めて見直すことが大切である。

大川地区福祉慰安大会

去る七月三十一日(土)午前十時から大川小学校講堂で、大川地区福祉慰安大会が開かれた。大会には大川地区の青年会、婦人会、若妻会、老人クラブの会員二七〇名が参加した。

これは同地区の住民が老若男女を問わず地域の和を広げ、そして固く團結しようとする意気込みを、大会にはシンボルを表わす大川音頭の披露式と木村、下樋口、石崎、四ツ屋、西野、谷地中の各部落から歌や踊りなどがあつた。とくに西野部落の子ども番楽は伝統芸能としてこの八月に秋田で行わ



五城目町文化財指定シリーズ ④ 遮光器土偶頭部 番楽

◆遮光器土偶頭部
北方文化圏の特徴的なもののひとつで、大きな顔いっばいの目の形から、遮光器土偶と名づけられた。



これは中山土器の最高の作品である。残念なことに完全な形でなく頭部だけであるが、その価値は少しも減しない。貴重な考古資料である。この種の土偶は、東北北部に特徴的に見られ、亀ヶ岡式土器と共に出土される。その遮光器とよばれる目に特徴があり縄文時代後期のものである。

◆番楽

五城目地域に伝えられる番楽は県内に残る番楽の中で最も古型を示しているといわれ、その継続についてはこの四つ(番楽)はそれぞれの村で組織的



にりと組んでいられる。番楽は五城目に渡すに残っていることも、これまで地域住民の信仰生活と密接な関係にあつたからである。

大川地区におけるこの福祉慰安大会は、今回はじめての試みであったが終始ごやごやと行われ演者が聴衆が一体となって明日の町づくりに貢献しようとする熱気を帯びながら行なわれていた。

今回の大会をきっかけに大きく発展するものと期待されている。

実施地区はつぎの六地区とし、これは現在行っている町内部落からの申込を受けながら推し進めるものである。

警察官を募集
県人事委員会では、現在昭和五十一年度の警察官を募集しています。この募集は秋田県をはじめ、千葉、埼玉、神奈川、静岡の各県警及び警視庁に勤務する警察官を採用するもので、新しい感覚をもち若い力と情熱にあふれる青年の応募を心から望んでいます。

町主催の移動町民室

第一回は富津内地区で

町では広報活動の一つに移動町民室を始めた。いま行っているのは、各町内部落で企画されたものですが、これと町で主催するといふ二本立てで開く。

▽実施地区
富津内、八月十七日(火) 富津内コミュニティセンター

▽申込受付期間
七月十二日～九月三十日まで
第一次試験 十月十日(金)

●五城目町町内、馬場目地区、内川地区、面湯地区、大川地区
九月～三月までまた、各部落の八月分移動町民室は、九日上山内、十日岩城町、十七日北々口となつていく。
●採用予定人員
秋田県約 四十名
他都県約 五十五名

